

北海道情報大学学内報



(第15回蒼天祭)

●目次●

蒼天祭を終えて 学長 久野 光朗 …………… 2～3	第15回 蒼天祭特集 …………… 8～9
海外研修記 —ミュンヘン大学での日本語教育— 経営情報学部 助教授 梅津 真 … 4～5	卓球部 野幌地区大会で大活躍 —シングルス・ダブルス共に優勝— ……………10
国際交流委員会だより …………… 6	第1回 情報大囲碁大会 囲碁部顧問 石井 勝 ……………11
祝 国体出場 フェンシング フルレ部門 檜 なぎささん … 7	主要行事・編集後記 ……………12

発行・北海道情報大学  
〒069-8585 江別市西野幌59-2 TEL011-385-4411 FAX011-384-0134



# 蒼天祭を終えて

学 長 <sup>く</sup>久 <sup>の</sup>野 <sup>みつ</sup>光 <sup>ろう</sup>朗

## § 1 はじめに

学生諸君が主体的にかかわる本学の2大イベントのひとつである蒼天祭は、今年も10月4日(土)と5日(日)の両日にわたって開催され、無事に終了したことを関係者一同とともに大いに喜びたい。

小生は、蒼天祭紹介パンフレットのなかで、「第15回蒼天祭を迎えて」という挨拶文において、まず次のように問いかけました。「学生諸君は、これまでの人生で、それぞれ『個人』・『組織』・『社会』という分類範疇における自分自身の立ち場や生き方を真剣に考えたことがあるでしょうか。」

ついで、小生は次のように希望を述べておきました。「蒼天祭というイベントを通じて、まず大学という組織の観点から個々の在学生諸君や教職員各位の期待を十分に汲みとっていかなければならないでしょう。また、本学が立地している地域社会としての野幌を中心とする江別市および周辺地域をも考慮に入れ、そこで生活する市民たち——地域住民も忘れてはならないでしょう。…」

以下、かかる問いかけや問題提起を前提にして、若干の感想および反省事項について言及させてもらいましょう。

## § 2 イベント催事の質と量

今年の蒼天祭で企画されたイベントは、量的側面だけからいえば、問題がなかったのではないのでしょうか。まず2日目の「よさこい大乱舞!!」は本学自体の「江別まっことええ&北海道情報大学」を筆頭に小学校・短大・大学などから8つの友情出演もあって、非常に盛り上がりを見せてくれました。

メインステージ前の中庭や教室で開かれていた模擬店は大いに楽しませてくれました。小生も、「バター付きのポテート」や「焼きとり」を口にしながら「生ビール」で喉をうるおし、「焼きそば」を賞味して大満足でした。昨年に引き続き「おでん」も美味しかったことを付言しておきましょう。

その他の展示・発表では教職員を中心としたビデオ放映・絵画・写真などが注目を惹きました。しかし、学生諸君の日頃の学習成果である展示・発表が林ゼミ・高井ゼミ・中村ゼミという、いずれも情報学科の3ゼミに限られていたのは残念でした。

さらに、YeLLOW Generationの生ライブとともに井上芳保教授(札幌学院大)による講演会への出席者がすくなかったことも残念でした。とくに講演会は、若者にとって貴重な題目であったにもかかわらず、期待が裏切られてしまい、講師に対して申し訳ないことをしたという気がしてなりません。

### § 3 参加意識の高揚を望む

近代オリンピックの創始者クーベルタン男爵の言葉ではありませんが、参加することに意義があるはずの大学祭に、その主体を担うべき学生諸君の参加がすくなかったということは謙虚に反省しなければなりません。

欲をいえば、もっと多くの市民たちにも来学してもらいたかったと思います。とくに、次代を担う小・中・高の生徒さんたちにもグループで参加してもらいたかったと思います。この件については次年度以降の宿題にしておきましょう。

ただし、初代学長の本下重教先生が杖を頼りにしながらも元気な姿で御来学くださったことを非常に嬉しく感じました。ここに先生と御一緒に撮影した記念写真と、その写真をお送りした後でいただいた礼状とを無断で掲載させていただきます。

「拝啓 秋冷の候、御清栄のことお喜び申し上げます。

先日は、情報大学の蒼天祭に参上したときの写真をお届け頂き有り難うございました。

久しぶりに情報大学のキャンパスの土を踏みしめ、清新な思いに浸りました。

日増しに伸びゆく大学に乾杯しています。

ご健勝を祈ります。皆さんによろしく。 敬具」



(前列 左側から中居事務局長、久野学長、木下初代学長)

### § 4 実行委員たちの努力を賞讃する

以上、本年度の蒼天祭について若干の感想を述べ、また次年度以降の宿題とすべき反省事項を提起してみました。なんらかの参考になれば幸いである。

最後に、実行委員長をつとめた林勇治郎君以下、総勢40名からなる実行委員の諸君には、お世辞ぬきで「よくやった!」と賞讃の言葉を呈したい。それぞれ会計・建設・企画・出展・広報の各部門で準備段階から長期間にわたって尽力し、ときには土曜・日曜を返上したほどの精励ぶりに敬意を表したい。

彼らの誠実な行為は、蒼天祭の紹介パンフレットづくりにおける心くばりにも伺われるが、教職員・協賛企業・協力した同僚の学生諸君・当日の参加者に対する謝辞を忘れることなく述べている。さらに、最終日、彼らは夜中すぎまでかかって校舎内の清掃をしていたという。その証拠に、翌日、学長室に委員長と副委員長とが揃って無事終了した旨の報告に訪れたが、彼らの<sup>まぶた</sup>は腫れぼたくなっていて、前日までの疲労と睡眠不足を如実に物語っていた。しかし、彼らの顔には、実際に大きな仕事を成し遂げた者のみ<sup>みなぎ</sup>が示しうる充実感が漲っていたことも見逃すわけにはいかなかった。



(HPコンテスト表彰式 右側は久野学長)

# 海外研修記

## — ミュンヘン大学での日本語教育 —

経営情報学部 助教授 梅津 真

私がミュンヘンへ向かったのは2001年九月下旬、ニューヨークの貿易センタービルテロ事件のショックがまだ覚めやらぬ頃で、空港の雰囲気もどこかピリピリしていました。滞独中にマルクがユーロに切り替り、その後のサッカーワールドカップやイラク戦争など、一連の世界史的な出来事を日本と違う角度から眺めることができたことは貴重な経験になりました。その詳細は別の機会に譲るとして、この稿ではミュンヘン大学での研修について簡単な報告をしたいと思います。

ミュンヘンで生活するのは二度目でしたが、前回と違って今回はミュンヘン大学日本学科教授という肩書きを背負っていたため、眼下にバイエルンの景色が見えてきた時、心の中では、ある種の懐かしさと、重責を全うできるだろうかという不安とプレッシャーが交錯していました。私が所属した東亜研究所は、大学本部棟からイギリス庭園を抜けて1キロほどの「中国の塔ビアガーデン」の南側にありました。ここには日本学科の他にインド学科、中国学科なども入っており、研究者の顔ぶれも国際色豊かで、ちょっとした国際単科大学といった趣きでした。付属図書館には日本でもお目にかかったことのないような本が沢山置いてあり、目を丸くしたものです。

今回の研修テーマは日独比較文化研究というもので、実質的には日本語教育を通しての日本文化の紹介と、ドイツ語と日本語の表現上もしくは言語学上の諸問題を先生方や院生達と論じ合うのがメインでした。ミュンヘン大学日本学科はハンブルク大学、

ボーフム大学、ウィーン大学と並んでドイツ語圏では最高水準を誇る学科として知られており、学生達の日本に対する関心や日本語学習のモチベーションは予想以上に高く、新鮮な驚きを禁じ得ませんでした。日本学を専攻する学生は主専攻、副専攻合わせて一学年あたり四十～五十人で、英語やスペイン語などに比べるとまだマイナーな方ですが、ここ数年は微増傾向にあるということでした。十月のVorbereitung (新学期オリエンテーション)の会場は学生達の熱気で満ち溢れており、先生方の科目紹介にじっと耳を傾ける真剣な姿は感動的と言ってもいいくらいでした。彫りの深い顔立ちの教授陣、学生、事務官を前にして自己紹介した時は思わず武者震い(?)を覚えたものです。



(ビアガーデンでのお別れコンパ)

主専攻の学生は、日本の経済や歴史などの科目と平行して、日本語を週六時間学びます。二年目の最後に実施されるZwischenprüfung (中間試験)にパスしないと上のコースに進めず、しかもそれは二

回までしか受験できないため、皆必死になって勉強していました。中間試験は日本語の筆記試験、聞き取り試験の他、日本全般に関する口頭試問を丸二日かかりでやります。合格率は60～70%前後とかなり厳しく、二度失敗して日本学を断念して他学科へ移ったり、大学をやめてしまう学生も珍しくありませんでした。

私が担当した科目はGrundstudium (日本語基礎研究)という教科書を用いた演習、漢字や会話、ビデオ演習、読解演習など、初級から上級まで週八コマ。一年生はA B二クラスあって、それぞれ十五～

二十五名、漢字のクラスは一、二年それぞれ二十～三十名、中間試験を終えた院生対象のクラスは四、五名といったところで、語学のクラスとしては理想的な人数でした。学生の出身地はドイツ以外に、フランス、イタリア、オランダといった西欧や、ハンガリー、チェコ、ルーマニア、ブルガリアといった東欧、更にはスウェーデン、リトアニア、ウクライナ、トルコ、中国、韓国など実に多彩で、ドイツ人と日本人のハーフの学生も結構目につきました。助手のユタ女史からは、なるべく日本語を使って授業するようと言われていましたが、学生の質問に下手なドイツ語で答えようとして四苦八苦するし、漢字の筆順を間違えて恥はかくし、最初は冷や汗の連続でした。特に大変だったのはビデオ演習の準備で、日本語関係のビデオのチェックと資料作りで土日がつぶれ、週末の息抜きなど夢のまた夢でした。しかも一講目の授業(朝八時半開始)が週三回あるため、午前五時頃には起きなければならず、これまで経験したことのないストレスと緊張を強いられて、三ヶ月で体重が五キロも落ちました。

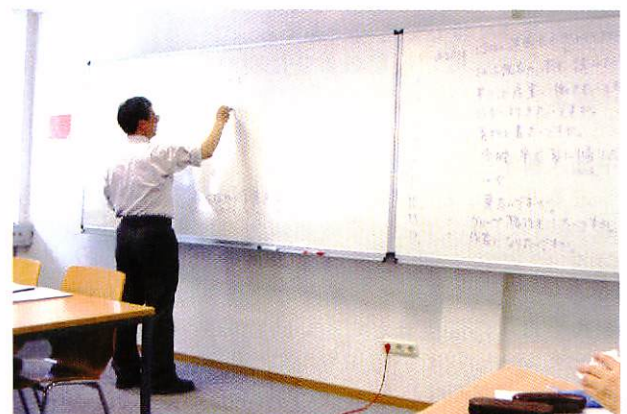
このようなハードな生活に耐えられたのは、同僚の先生方の適切な助言や暖かい励ましがあったお蔭ですが、それと同時に学生達の熱心な授業態度にこちらが乗せられて、いつしかハードな生活をハードと思わずに頑張れたせいだと思います。学生の中にはゼーブリュックやインゴルシュタットなど、ミュンヘンからかなり離れた町から二時間以上かけて通学する者や、冬の暗くて寒い中、最前列の席を確保するために七時頃、教室に来て陣取っている者もいて、彼等の「やる気」に応えなかったら、はるばる日本から来た意味がないと、気持ちを奮い立たせたものです。

一番気が楽だったのは、院生達との「易しい読み物」の時間で、さくらももこ、村上春樹、吉本バナナといった比較的軽めの作品をドイツ語に訳しながら表現上の問題をあれこれ論じ合うもので、我々に馴染みのない俗語表現や、バイエルン特有の言い方などを教えてもらい、いい勉強になりました。

なお、大学での正規の日本語教育の他に、春と秋の休み期間中、一般市民対象の日本語集中講座もありました。日曜日を除いて丸二週間、朝から晩まで文字通り集中的に日本語の勉強をするもので、自主的に参加する学生の他、老若男女、様々な職業の社会人が毎回七十～九十人も参加していました。また

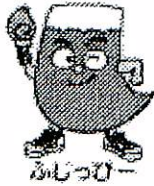
三月には日本領事館主催の日本語弁論大会が行われ、二度ほど審査員として駆り出されましたが、今年はバイエルンの予選で一位になったミュンヘン大出身の女子学生がケルンで行われた全国大会でも優勝し、成田とフランクフルト間の往復航空券を手に入れました。因みに彼女のタイトルは「日本はオバタリアンで回っている」というユニークなものでした。空手や柔道は女子学生にも人気がありましたし、アルバイトでお金を貯めて日本に行き、「千と千尋の神隠し」を五回も見て来た学生、日本の新幹線の路線にすべて乗ったという新幹線マニアの学生、日本の漫画を愛読して漢字をマスターしたという漢字オタクの学生、自分の部屋に畳を敷いて和風の書斎を作り、座椅子に座って勉強している学生、納豆や生寿司、稲荷寿司に目がなく、自分で作って食べているという女子学生達、ノートなど身の回りのものをキティちゃんグッズで固めている女子学生など、日本にハマっている学生が大勢いて、何か不思議な感じがしたものです。なお、中間試験にパスした学生達は、現在、日本語に磨きをかけるべく北大、九大、京大、阪大、広島大、同志社大、早稲田大、学習院大など、日本各地の大学に留学して勉強を続けています。日本とドイツの架け橋として活躍するであろう人材の養成に、いささかなりとも寄与できたことを嬉しく思っています。

最後になりましたが、このたびの海外研修は二年間という異例の長期に渡るもので、ミュンヘン大学当局の強い要望があったとは言え、久野学長はじめ、大野前学長、中居事務局長、加納教授、立花前教養主任らのご理解、ご配慮がなければ実現しないものでした。改めて御礼申し上げます。



(授業風景)





平成15年  
第58回 国民体育大会

## NEW!! わかふじ国体

祝

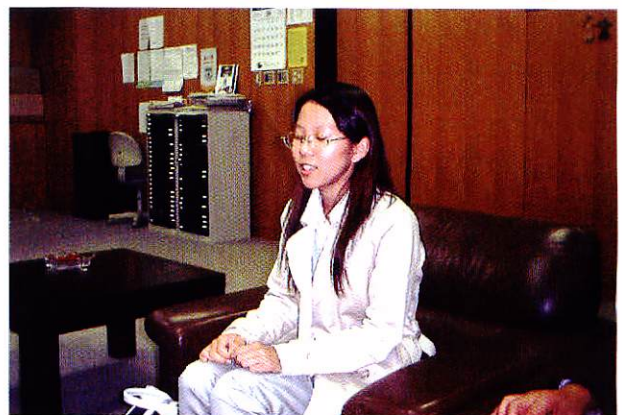
### フェンシング

#### フルーレ部門で 檜 なぎささんが出場

本学情報メディア学部情報メディア学科2年の檜なぎささんが、フェンシングで国体に出場することになりました。種目はフェンシング成人女子のフルーレ。フルーレとは上半身を突く競技で、3人一組の団体戦で争われ、5本先取で試合が決まります。

檜さんは高校時代にもフェンシングで国体やインターハイに出場した経歴を持っています。本学入学後も週1回、出身高校の生徒や卒業生が集まっての練習会に参加して、技を磨いてきたそうです。今年は8月の北海道予選を3位で通過し、国体出場資格を得ました。一緒に出場する2人は高等学校の先輩で、目標にしていた選手とのこと。10月16日(木)久野学長に出発の挨拶を行った際に、「国体に出ることができると思っていたのでうれしい。団体戦なので他の人の足を引っ張らないように頑張りたい。」と抱負を述べていました。(平成15年10月21日記)

追伸 残念乍ら、10月28日に行われた大会では1回戦で大分と対戦。惜しくも敗退してしまいました。今後の更なる活躍を期待しています。



(久野学長の激励を受ける檜さん)

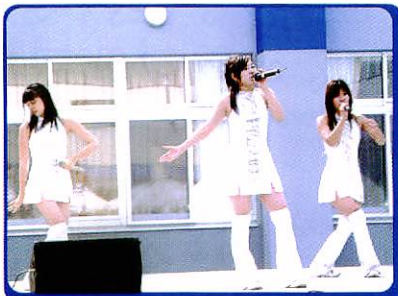
# MEMORIAL PHOTO by 第15回 蒼天祭

DATE  
2003.10/4~5





MEMORIAL PHOTO by 第15回 蒼天祭 DATE 2003.10/4~5



# 卓球部

## 野幌地区大会で大活躍

### —シングルス・ダブルス共に優勝—

情報メディア学科

3年 佐藤 陽介 (ダブルス優勝)

11月9日に行われた、野幌地区卓球大会に出場しました。この大会で佐藤・久住(情報大)ダブルスが優勝、田中・マクラティ(野ク 情大)が3位に入賞しました。情報大学卓球部は、前年度に大学生リーグで2部に昇格したこともあり、前年度にも増して今年度は日々、熱意をいれて練習してきました。その卓球部全体の努力の成果が実り始め、今回の野幌大会での成績に結びついたのでと思います。野幌大会で、学ぶことが数多くあったと思います。サーブやレシーブ、フットワークなど技術面もそうですが、そのほかにダブルスの時の意思疎通、勝利間近のプレッシャーなどのメンタル面でも色々学ぶ事ができました。野幌大会で、卓球部の実力が上がってきている事を認識しましたが、それと同時に今のままでは大学生リーグの上位クラスには通用しないと言う事も理解しました。卓球部の次なる目標は大学生リーグで1部昇格です。1部昇格という目標を達成するためにはもっともっとチーム全体の実力と団結力を身につけなければいけません。この大会で学んだ事を牛かし、更に練習を積んで次なる目標達成のためにがんばっていきたいと思います。

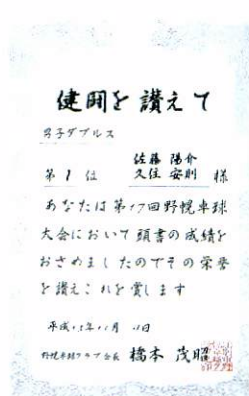
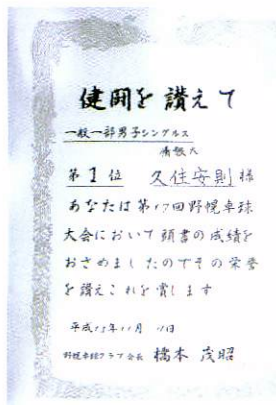
情報メディア学科

3年 久住 安則 (シングルス・ダブルス優勝)

私たち卓球部は昨年の秋季全道学生卓球選手権大会において2部昇格を果たしました。そして今年は1部昇格を目標とし、日々練習に励んでいます。

11月9日に行なわれた第17回野幌卓球大会ではシングルス・ダブルスともに優勝という結果を残すことが出来ました。部員不足や練習時間の確保が難しいなかで素晴らしい結果が残せたことを誇りに思うと同時に、ダブルスパートナーの佐藤君に感謝しています。彼の活躍無しに優勝することは出来ませんでした。もちろん、チームメイト、前田先生、チャールズ先生など多くの方々にもお世話になりました。これからもご指導ご鞭撻のほどよろしく願います。

最後になりましたが、現在卓球部は部員が少ないため、新入部員を募集しています。一緒に1部昇格を目指して頑張ってくれる方、卓球が好きな方、体力をつけたい方、映画「PINGPONG」に影響された方、学年・性別は問いません。「私にもできるかなあ…」と思ったら、迷わず体育館に顔を出してください。月、火、木の夕方、お待ちしております。



(左から 前田先生、佐藤(陽)、久住、マクラティ先生、佐藤(守)、石川)

# 第1回 情報大囲碁大会

囲碁部顧問 石井 勝

## 1 蒼天祭にて

今年度の蒼天祭において囲碁部は2度目の囲碁交流室を設けました。本学の学生・教職員の皆さんも多数来室し、囲碁部員との対局がありました。その折に、林雄二経営情報学部長から「学内の囲碁大会を行ないたいですね。」とのお話がありました。

囲碁部は同好会時代を含め結成3年目となり、部員の棋力も向上の一途にあり、教職員の方々との対局は研鑽と交流の場として願っても無いことです。顧問は部員の囲碁世界の視野を広げ、また同好の教職員の方々が一同に会し趣味の交流を深める機会を設けたいと、学生サポートセンター事務室の協力をいただき、早速実現に向けて取り組みました。

## 2 第1回北海道情報大学囲碁大会の開催

第1回北海道情報大学囲碁大会が(表-要領)の通り開催されました。

平緒崇敏囲碁部長が「初めて石を握るところから歩みだした囲碁部員の私たちが教職員の皆さんと対局することは夢でした。その機会がもてとても嬉しく思っています。」と開会の言葉を述べました。

久野光朗学長から、ご自身の囲碁との関わりをお話しになった後、「学生と教職員の交流は素晴らしいことです。この大会が長く続くことを期待しています。教職員は、伸び盛りの学生諸君に刺激を与えるために大いにやっつけてください」と楽しいご挨拶をいただきました。日頃囲碁部を見守って下さっている中居聰士事務局長は、「全道学生選手権大会の応援をしましたが、健闘し3位入賞でした。その力を教員相手に大いに発揮してください。」と学生たちを激励してくださいました。

参加者は13名(学生9名、教職員4名)でした。

参加者	教職員	梅津 真 四段	石井 勝 三段
		林 雄二 二段	竹内典彦 初段
	学 生	岡田直樹 六段	山口 大 三段
		平緒崇敏 1級	花田卓也 1級
		工藤慎吾 1級	加藤大也 5級
		阿部栄治 6級	久末雅之 7級
		植田康孝 7級	

対局は和やかな中にも真剣な熱気をもって行われました。リーグ戦を終えた時点で全勝者が教員の3名で学生諸君はやや苦戦の状況です。最終局では、岡田六段が全勝者の一人梅津四段に勝ち、山口三段が林二段を破り、学生たちの意欲を示しました。

閉会式では、成績発表後に林雄二経営情報学部長から「知的ゲームである囲碁は情報大にふさわしい

ものです。囲碁部の一層の活躍と来年も交流大会が行なわれることを期待しています。」と閉会のことばがあり、満足しつつ記念となる第1回情報大囲碁大会を終えました。

### 平成15年度 北海道情報大学 囲碁大会 要領

- 1 期日 第1日 11月6日(木)17時35分～20時00分  
第2日 11月13日(木)17時35分～20時00分
- 2 会場 第1日 セミ室1 第2日 セミ室3
- 3 目的 学内の囲碁同好会の士が集い交流と研鑽を深める
- 4 次第
  - 第1日
    - 1 開会のことば(平緒崇敏囲碁部部长)
    - 2 久野光朗学長ご挨拶
    - 3 中居聰士事務局長ご挨拶
    - 4 ルール・対戦表確認、抽選
    - 5 対局
  - 第2日
    - 1 諸連絡
    - 2 対局
    - 3 成績発表
    - 4 記念品贈呈
    - 5 閉会のことば(林雄二経営情報学部長)
- 4 ルール(申し合わせ)
  - 1 段・級位自己申告(ハンディキャップ戦)
  - 2 互先の場合はコミ6目半
  - 3 時間制限1局 1時間  
超過しそうな場合: 1時間で打ち切り、判定または引き分け
- 5 対局表 別紙

幹事 囲碁部  
林経営情報学部長  
学生サポートセンター事務室



◆◇ 7~11月主要行事 ◆◇  
☆ 法人本部 ☆

- 9月17日(水) 期中監査(監査法人トーマツ)
- 9月19日(金)
- 10月2日(木) 理事会
- ☆大 学☆
- 7月11日(金) 経営情報学部教授会
- 18日(金) 情報メディア学部教授会
- 20日(日) AO入学試験(A日程)第1次面談
- 25日(金) 全学教授会
- 8月8日(木) 「インターネットと著作権」に関する講演会  
講師:横浜国立大学 田口 重憲 助教授
- 29日(金) 教職員健康診断
- 9月12日(金) 経営情報学部教授会
- 19日(金) 情報メディア学部教授会
- 20日(土) 平成15年度「ふるさと江別塾」
- 21日(日) AO入学試験(B日程)第1次面談
- 26日(金) 全学教授会
- 10月4日(土)~10月5日(日) 大学祭(蒼天祭)
- 10日(金) 経営情報学部教授会
- 11日(土) 情報メディア学部3年次編入学(1次募集)選抜試験
- 17日(金) 情報メディア学部教授会
- 19日(日) AO入学試験第2次面談
- 31日(金) 全学教授会
- 11月14日(金) 経営情報学部教授会

☆通信教育部☆

- <入学選考>
- 8月29日(金) 平成15年度秋期第1回入学者選考
- 9月19日(金) 平成15年度秋期第2回入学者選考
- 10月3日(金) 平成15年度秋期第3回入学者選考
- 10月17日(金) 平成16年度春季第1回入学者選考
- <前期地方スクーリングII>
- 7月4日(金)~7月6日(日) 大分
- <前期地方スクーリングIII>
- 7月4日(金)~7月6日(日) 名古屋、福岡
- 7月11日(金)~7月13日(日) 全国15か所
- 7月18日(金)~7月20日(日) 山梨、広島
- <夏期スクーリング>
- 8月4日(月)~8月27日(水) 本学、東京、大阪、福岡
- <後期地方スクーリングI>
- 10月24日(金)~10月26日(日) 全国16か所
- 10月31日(金)~11月2日(日) 大分
- <後期地方スクーリングII>
- 10月31日(金)~11月2日(日) 兵庫
- 11月7日(金)~11月9日(日) 全国15か所
- <前期メディア授業科目試験>
- 7月22日(火)~25日(金)
- <前期印刷授業科目試験>
- 8月29日(金)~31日(日)、9月6日(土)~7日(日)、13日(土)
- <インターネットメディア授業>
- 10月1日(水) 授業開始

◆◇ 広報活動 ◆◇

- <北海道情報大学説明会>
- 7月4日(金) 於:本学
- <北海道情報大学・北海道情報専門学校合同入試説明会>
- 10月9日(木) 於:青森、10月10日(金) 於:盛岡
- <北海道情報大学オープンキャンパス>
- 8月2日(土)、8月3日(日)、8月31日(日)、9月27日(土)、10月25日(土)
- <北海道情報大学通信教育部独自説明会>
- 7月28日(月) 於:帯広、7月29日(火) 於:北見
- 7月30日(水) 於:釧路、7月31日(木) 於:旭川
- 8月3日(日) 於:札幌、8月4日(月) 於:函館
- 9月14日(日) 於:東京
- <私立大学通信教育協会合同入試説明会>
- 8月30日(土) 於:東京、8月31日(日) 於:札幌
- 9月6日(土) 於:大阪・福岡、9月7日(日) 於:名古屋
- <私立大学協会合同進学相談会>
- 9月27日(土) 於:東京

<北海道情報大学教職課程説明会>

- 7月6日(日) 於:札幌教育センター、新潟教育センター、名古屋教育センター、大阪教育センター、北九州教育センター、福岡教育センター、大分教育センター、鹿児島教育センター
- 8月2日(土) 於:広島教育センター

<情報フェア2003>

- 10月31日(金) 於:京王プラザホテル札幌

<進学相談会>

- 7月:北海道2会場(札幌、根室)、静岡県1会場(静岡)
- 8月:北海道5会場(旭川、北見、釧路、帯広、札幌)
- 9月:北海道10会場(函館、釧路、帯広、室蘭、苫小牧、小樽、札幌、函館、北見、旭川)
- 青森県2会場(青森、八戸)、秋田県1会場(秋田)
- 岩手県1会場(盛岡) 計22会場

<高校内進学ガイダンス>

- 7月:北海道2校(北海高校、旭川大学高校)
- 8月:北海道2校(札幌龍谷学園高校、千歳高校)
- 9月:北海道1校(旭川凌雲高校)
- 10月:北海道1校(北海道栄高校) 計6校

<高校出前授業>

- 7月18日(金):根室高等学校
- 9月9日(火):知内高等学校 計2校

<高校訪問>

- 7月:北海道235校、8月:北海道10校
- 9月:北海道111校、岩手県:22校、10月:北海道249校、岩手県68校

<テレビ>

- 7/15~7/30、8/20~8/29、9/15~9/24、10/4~10/25:UHB

- 7/23~7/30、8/22~8/30、9/17~9/26:TVH

<新聞>

- 7月6日(日):北海道新聞、読売新聞、朝日新聞  
(私立大学協会北海道支部連合)
- 7月20日(日):北海道新聞(私立大学連合)
- 7月27日(日):北海道新聞、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞  
(私立大学連合)
- 8月9日(土):北海道新聞、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞  
十勝毎日新聞、東奥日報、河北新報、秋田魁新聞  
岩手新聞(私立大学連合)
- 8月18日(月):北海道新聞(本学独自)
- 8月19日(火):朝日新聞(私立大学通信教育協会連合)
- 8月20日(水):西日本新聞(私立大学通信教育協会連合)
- 8月22日(金):読売新聞(私立大学通信教育協会連合)
- 8月25日(月):朝日新聞(私立大学通信教育協会連合)
- 8月26日(火):北海道新聞、東京新聞(私立大学通信教育協会連合)
- 8月28日(木):中日新聞(私立大学通信教育協会連合)
- 9月26日(金):朝日新聞、毎日新聞(私立大学連合)

<交通>

- 7/26~8/1、8/27~9/2、9/20~9/26、10/24~10/30
- ;札幌市営地下鉄

◆◇ 特記事項 ◆◇

<えつものづくりフェスタ2003>

- 8月29日(金)~8月30日(土) 於:札幌コンベンションホール

<eラーニング北海道2003>

- 9月20日(土) 於:北海道電力総合研究所

<全道国際交流活動発表会>

- 10月20日(月) 於:本学

◆◇ 主な来学者 ◆◇

- 7月10日(木) とわの森三愛高等学校 生徒21名、教員1名
- 7月11日(金) 松風塾高等学校 教員2名
- 7月25日(金) 北海道情報専門学校 学生49名、教員3名
- 9月10日(水) 石狩翔陽高等学校 生徒48名、教員2名
- 9月28日(日) 北海道栄高等学校 PTA御一行
- 10月1日(水) 白樺学園高等学校 教員2名
- 10月15日(水) 札幌丘珠高等学校 生徒12名、教員1名
- 津別高等学校 生徒5名、教員1名
- 10月17日(金) 北海道情報専門学校 学生53名、教員3名
- 10月21日(火) 大商学園高校 生徒23名
- 11月1日(土) 南京大学 閔鉄軍副学長 他2名

編集後記

例年になく今年の紅葉は素晴らしい。本学の周りの木々も色鮮やかである。たくさんの葉が落ちていくのを眺めるのも風情があっている。ただ、葉が全部落ちてしまうと今度は銀世界が待っている。古来、雪の降る季節を、白魔・冬将軍・銀世界などと呼び、恐れたり、ロマンを抱いたりする。同じ冬でも、見る側の状況によって呼び名も変わる。楽しい呼び名を連想しながら冬を過ごしたいものである。(S)

北海道情報大学学内報

「ななかまど」第28号

- 発行日 平成15年11月15日
- 発行 北海道情報大学
- 編集 学内報編集委員会